

● 白石踊後継者育成事業 白石踊会笠岡支部 2026 年 6 月の活動

1. 定期練習会

令和 8 年 6 月 6 日（土）に定期練習会がありました。

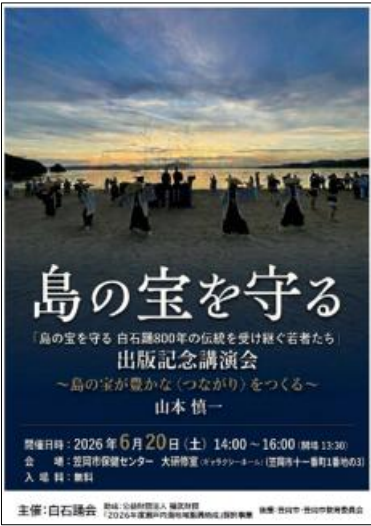
いつものようにブラブラ踊から始まり、各踊りの練習の後に総踊りをしました。夏本番が目前なのでみなさん、自分の踊りに磨きをかけておられました。さらに 6 月 20 日の出版記念講演会（後述）での舞台で白石踊を披露するための予行練習もありました。



2. 「島の宝を守る」出版記念講演会

令和 8 年 6 月 20 日（土）に笠岡市保健センター ギャラクシーホールにて、著者の山本慎一氏をお招きして「島の宝を守る」出版記念講演会を開催しました。

「島の宝を守る」出版記念講演会			
● 日時：2026 年 6 月 20 日（土）14:00～16:00（13:30 開場）			
● 場所：笠岡市保健センター 大研修室（ギャラクシーホール）			
時間	項目	所要時間	内容・詳細
14:00	開会挨拶	5 分	主催者（白石踊会）挨拶
14:05	白石踊の解説	10 分	「白石踊の特徴と見どころ」
14:15	白石踊の披露	20 分	白石踊会
14:35	記念撮影	5 分	記念写真撮影
14:40	休憩・会場準備	15 分	舞台片付け・講演準備
14:55	活動報告とメッセージ	10 分	「継承活動の紹介と若者からのメッセージ」 高校生による活動報告と、島で生きる若者の想い
15:05	記念講演	50 分	「島の宝が豊かな（つながり）をつくる」 講師：山本 慎一 氏（講演 40 分 + 質疑応答 10 分）
15:55	結び	5 分	書籍販売等の案内、閉会の言葉
16:00	終了		
終了後	サイン会		（終了後、会場にてサイン会・交流）



当日は雨の中、多くの皆様にご来場いただき、ありがとうございました。

この書籍には島外の高校生たちが白石踊に出会い、継承活動を始めたことがノンフィクション小説の形で描かれています。著者が白石踊の継承活動を始めた高校生たちとの出会いや白石島の魅力をお話くださり、高校生たち若者からも白石踊に取り組む様子も報告されました。白石踊も皆様にご覧いただきました。島の宝である「白石踊」を伝えていこうという私たちの想いと、この書籍の世界観が会場に満ちた、温かな会になったと感じました。なお、当日の司会や会場運営は高校生がおこなったことも、頼もしく感じました。

当日の様子を笠岡市観光協会さんがとても上手くまとめてくださっていますので、許可をもらって、以下にご紹介します。

・・・・・・・・・・以下は、笠岡市観光協会フェイスブックより引用・・・・・・・・・・

6月20日に開催された『島の宝を守る』出版記念講演会のようすをお届けします💎

まずは生涯学習課の安東さんによる、とっても分かりやすい白石踊の解説から始まりました。

続いて、白石踊会のみなさんによる、美しい衣装を身にまとった「白石踊」の披露🎭

男踊、女踊、笠踊、月見踊など、それぞれ異なる衣装と舞を一度に見られる機会はとても貴重👏

会場全体が、その独特の世界観にすっかり魅了されていました！

白石島で大切に守り伝えられてきた、800年の歴史を誇るまさに「島の宝」です。

後半は、継承活動に取り組む高校生たちの紹介や、白石島出身で現在も踊り手として活躍されている20代女性のトーク。これが本当に心に響く内容でした。

「踊りは人と人の間にある。ただ見よう見まねで覚えるものではなく、人と人とのコミュニケーションで伝わっていくもの」

「守るということは、変わり続けるということ。自分ひとりにできることは小さなことかもしれないけれど、これからも踊りを伝え続けられるようがんばりたい」

そんな真っ直ぐな言葉に、会場からは温かい拍手が送られ、胸が熱くなりました👏

最後に、本の著者であり東京の出版社で編集者を務める山本慎一さんのお話へ。

ボランティアアワードで一生懸命に白石踊の魅力を語る、高校生たちの“キラキラした目”に心惹かれたことが、この本が生まれるきっかけだったそうです👏

実際に2024年に白石島を訪れ、島の空気や人々の魅力に触れたエピソードも語っていただきました。

さらにこの日は、著書の主人公である（当時高校生だった）ヨウくんも会場に駆けつけてくれました！

自分が始めた活動が仲間に広がり、次の世代や大人の心をも動かして一冊の本になったことへの驚きと感動を、ご自身の言葉で伝えてくれました。

・・・・・・・・・・以上、笠岡市観光協会フェイスブックより引用・・・・・・・・・・



開会挨拶



山本慎一氏ご講演



白石踊

島の若者を代表して天野佑里さんにお話をいただきました。皆様から「感動した」「良かった」「録音しとけばよかった」という大きな反響がありましたので、ご本人から発表原稿をお預かりし、ここに記載します。

・・・・・・・・・・以下は、天野佑里さん スピーチ原稿・・・・・・・・・・

私は高校を卒業するまで白石島に住んでいました。私がこの踊りのすごさや綿々と受け継がれてきた想いに気づけたのは大学生になってからです。

幼稚園の頃から中学生まで、学校の総合学習の時間やお盆前には公民館で地域の方から白石踊を教えていただいていたいました。

その時間は私にとって日常で、当たり前の日々でした。踊り継いでいかなければいけないという思いまでは持っていなかったと思います。

でも、踊りの継承活動を通して、小さな頃から地域の方々の背中はずっと見てきました。そうした時間を通して地元である白石島は私にとって大切な故郷だという思いも芽生え、家族のように可愛がってくださった地域の方のことも大好きでした。

大学では、地域についての学びを深めるため、地域学部地域創造コースで生活論や民俗学を専攻していました。

ゼミの教授は、地域は英知、知恵の宝庫だとよくおっしゃっていました。地域でできるだけ長く過ごし、語りや地域の方の声から学ぶことを大切にしろと言われていました。

大学生活を通じて教授とともに色々な地域に行きましたが、色々な地域の方の言葉を聞くたびに、白石島のことをちゃんと知りたいなと思うようになりました。

このような流れで、卒業論文では2年間白石島と向き合いました。何をタイトルに何を書き残すかは、決まっておらず、島と向き合う中で、最終的に「踊りがつなぐ島の未来」というタイトルの卒論を書きました。

それは島の多くの方の語りから、白石踊について「踊りは人生」「白石島で生まれ育った誇り」という言葉を聞いてきたからです。

2023年の島の盆の時、当時90歳を超えていた中塚てつおさんという白石踊の音頭の名手の方と天野与三郎さんという太鼓の名手の方が、太鼓と音頭を数年振りにされました。

音頭を終えた中塚てつおさんが、「もうあとは死ぬだけじゃ」と言って踊りの輪から出ていかれたことが鮮烈に記憶に残っています。

それだけこの踊りというものは、島の方々にとって人生の中で何にも変えられないものだったのだと感じました。

卒業論文について、詳細を伝える時間はないので省略しますが、踊りというのは人と人との間にあるものです。書き記されたモノでもなく、何かを読めばわかるもの、簡単に踊れるものではありません。

その土地で生きてきた人から、次の世代へと、人から人へ伝承され、今があります。白石島で長年受け継がれてきた踊りは、島の過去と現在と未来をつなぐ大きなものだと思います。

2年間の卒業論文に取り組む中で、このことを理解し、言葉にできた時、私はこの踊りが、働くために島に住んでいなくとも、島と、島で生きてきたこれまでの方々と繋がれる大きな支えのように感じられるようになりました。

今回本も読ませていただきましたが、島外の若い人たちもこの踊りに魅了され、継承活動に取り組んでいるという事実にごく感動しました。

「守る」というのは「変わり続けること」だと思っています。その時、その社会の中で、踊りのあり方や白石島に起こる変化を受け止めて、社会人で働きながらできることは小さなことかもしれませんが、1人でも多くの方にこの踊りの素晴らしさを伝え、未来につないでいけたら嬉しいです。

・・・・・・・・・・以上、天野佑里さん スピーチ原稿・・・・・・・・・・





山本慎一氏ご講演



高校生の司会



高校生による活動報告



記念撮影

白石踊会笠岡支部からのお知らせ

次回の定期練習会は8月1日（土）19：00～20：30 に実施予定です。

笠岡市中央公民館にて（笠岡市笠岡 1866-1）

社会状況によっては急な中止もあり得ますので、ご承知おきください。体調のすぐれない場合はご遠慮ください。未経験者も学生さんも大歓迎です。お気軽にご参加を！ お待ちしております。

以上